

## 令和2年度 第2回外部評価委員会 議事録

1 日 時 令和3年2月12日(金) 13:30~15:30

2 場 所 宮崎県立農業大学校 会議室

3 出席者 [外部評価委員] 7名

黒木 覚市 宮崎県立農業大学校同窓会 会長  
坂本 康子 施設園芸農家・ジュニア野菜ソムリエ  
児玉亜沙美 マンゴー農家・Hinata あぐりんぬ 副会長  
大石 朝寛 茶農家・宮崎県SAP会議連合 理事長  
橋口 幹夫 川南町役場産業推進課 課長  
奥平 博徳 宮崎県立高鍋農業高等学校 校長  
戸高 久吉 宮崎県農業経営支援課 農業担い手対策室 室長

[事務局(宮崎県立農業大学校)] 10名

徳留 英裕 宮崎県立農業大学校 校長  
大平 敬三 // 副校長(総括)  
山下 勉 // 副校長(教育担当)  
森 幸文 // 総務担当主幹  
木下 誠一郎 // 農学科 教授  
松葉 久美 // 農学科(フードビジネス専攻) 教授  
垂水 啓二郎 // 畜産学科 教授  
平川 孝一 // 教務学生課 准教授  
山本 泰嗣 // 教務学生課 専門主幹  
垣内 佳介 // 教務学生課 技師

[オブザーバー] 1名

井口 孝 宮崎県農業経営支援課 農業担い手対策室 主査

### 4 会次第

#### (1) 開会行事

①校長あいさつ ②出席者紹介(自己紹介) ③説明(会の進行について)

#### (2) 協議

①本年度の活動の成果について  
②質疑応答及び位県交換  
③外部評価(学校関係者評価)

#### (3) 閉会行事

①次年度の委員について  
②校長謝辞

## 5 あいさつ及び発言等の記録

### 5-1 開会行事

#### (1) 校長あいさつ

皆さま、お疲れさまでございます。本日は第2回外部評価委員会ですが、本来ですと6月に第1回目の評価委員会を開催する予定でした。しかし、第1回につきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、書面協議という形で開催させていただきましたので、実質的には今回が最初で最後の外部評価委員会ということになります。

私たちは、資料に書かれている教育目標に基づきまして、職員一同一所懸命やってきたつもりでございます。しかしながら本当にそれができているのか、また、その目標が本当に県内の農業界から求められている人材育成につながっているのかということ、皆さま方にしっかりご審議いただき、その結果に基づいて、来年度の新たな教育目標や新たなカリキュラムを編成していきたいと思っております。

本日は短時間となりますが、忌憚のないご意見を出していただきまして、よりよい農業大学校づくりのためのアドバイスをいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### (2) 出席者紹介（自己紹介） ※省略

#### (3) 会議の運営について〔副校長（教育担当）〕 ※省略

### 5-2 協議

#### (1) 本年度の教育活動の成果について ※資料説明のため省略

#### (2) 質疑応答及び意見交換

[委員長代行]

各学科ごとに説明していただいた。これから委員の皆さまからの質問や意見を伺いたい。

[委員]

1 ページに Facebook と Instagram の発信件数が書かれているが、農大校はLINEの公式アカウントを持っているのか。

[教育担当副校長]

LINEの公式アカウントは持っていない。

[委員]

川南町はLINEアカウントを持っている。高鍋町と新富町も公式LINEアカウントを持っている。川南町は高鍋町から情報を取ることが多い。私は facebook、Instagram、twitter のアカウントを持っていてSNSを結構使っているが、LINEが一番使う。せっかく情報発信をするのであればLINEの利用を検討するのがよい。友達は1000人まで無料でそれを超えると有料になる。

[フードビジネス教授]

今のところLINEアカウントの知識がない。情報担当の職員で話合って取り入れられれば、やってみたい。

[委員]

フードビジネス専攻の生徒は何人か。

[フードビジネス教授]

今年は1・2年生合わせて11名。

[委員]

川南町が4月に「PLATZ」という施設を立ち上げた。テストキッチンに結構豪華な調理器具を導入しているが、コロナの関係で利用実績がまだない。専攻の学生が11人だったら、町からバスをチャーターするので、定期的でなくてもいいので川南の食材を使っていただいて実績をつくりたい。ママンマルシェとは取り組んでいるとさっき出ていたので。

[フードビジネス教授]

ママンマルシェ **takanabe** とは連携協定を結んでいる。

[委員]

ぜひ、川南町とも連携してほしい。一度、見にきていただいて、やれるかやれないかを判断していただいて、できないということであれば諦める。

[委員長代行]

どこに建設したのか。

[委員]

高速道路・川南パーキング裏に連結施設として建設した。高速道路からでなくても入ることができる。

[フードビジネス教授]

学生を連れて行くので見学させてほしい。

[委員]

調理器具の他、ソフトクリームを製造する機材がある。結構、予算をかけている。

[委員]

今回の資料が見やすくなっていて感動した。そういうこともあるし、コロナ禍のこともあるので『B』のところは『A』にしてもいいと思う。評価票5ページに「遠隔授業が1回しかできなかった」とあるが、コロナ禍で授業回数が減ったということもあると思う。ここの『B』はそのまま、他の『B』は『A』にして『C』は『B』にしてもいいと思う。コロナ禍の中で本当に頑張られたなというのが切実な思いである。

[委員長代行]

評価票7ページの進路指導・資格取得に『C』が1カ所ある。ここは『C』でないといけない状況だったのか。

[教務学生課准教授]

今年度中に農業散布用ドローン操縦資格機関の認定を受けられるよう計画しているが、そこに至っていないというところで『C』にしている。

[委員長代行]

ドローンはどうするのか。

[校長]

ドローンは購入したが、大学校でドローンの資格が取れる体制をつくり上げるということが目標だった。そこに至っていないということで『C』にしている。学生にこの学校で免許を取得させるという体制をつくり上げるということが目標だった。

[委員長代行]

どれくらい遅れているのか。

[教務学生課准教授]

当初は3月までにはやり終えるということで計画していたがコロナ禍で遅れている。私を中心となって12月末までにドローン教習の教官資格を取得させていただけるように準備をしていたが、コロナ禍で3月にならないと取得できなくなった。そこで取得できるように計画を立てているが、取得できなかつたら教習施設には認定されない。私自身が取得できるかどうか心配している。

[委員長代行]

卒業生でも取得できるのか。

[校長]

今の説明は、学生が取得するというのではなく、まずは指導できる体制をつくり上げなければならない。そのために大学校に2人以上の教官がいなければならないが、コロナ禍でそれが遅れてしまっているということである。

[教務学生課専門主幹]

うまくいけば3月には教官2名の体制となる。

[委員長代行]

そういうことであれば『B』にしてもいい。『C』だと見た目が悪い。努力しているがコロナ禍の影響で遅れているということなので『B』でいいと思う。後でまた意見を願います。他にも今回は『B』が多い。

[教務学生課准教授]

先ほど意見をいただきましたが、オンライン授業を1回しかしなかったのは、他の大学と違って通常の対面授業ができているという理由である。他の大学がオンライン授業をやっているので1回やってみないといけないのではないかということで、1回だけさせていただいた。また、関東地方ではすべてオンライン授業で1回も登校できなかったという大学もあるが、本校はフィールドが教材であり、他の大学と違って授業ができていると理解していただきたい。

[校長]

オンライン授業については私が熱望したことである。本校は実践力を身につけなければならないので、半分は座学で半分はフィールドでの実習となっている。フィールドでの実習はコロナの影響は小さいだろうということで最低限の休校とした。実習である程度単位が取れる状況であった。外部講師も多いが、その方々からの協力を得ながら何とか授業ができた。当然、密を避ける形で授業を実施したが、評価についてはインターンシップがなかなか予定通りできなかったのがこのような評価となった。

[委員長代行]

コロナの影響は大きかった。

[委員]

スマート農業についての農業大学校の考え方をお聞きしたい。川南町に上がってくる融資の書類の中でドローンが目立ってきている。距離の近い農家から別々に300万円のドローン購入のための書類が上がってきた。個人ごとに所有していると便利なのかもしれないが、農地面積はそれほど広くないのでコスト的にどうなのかなと思う。

[委員長代行]

大きいドローンなのか。

[委員]

金額でしか見ていないので大きさはわからない。融資金額が300万円ということである。

[委員長代行]

300万円のドローンだったら1回に何リットル散布できるのか。

[委員]

10リットルくらい散布できる。

[校長]

農業大学校では希望する学生がドローンの操縦資格を取得できる体制をつくっていくのが趨勢ではあるが、誰でもが取得する資格という訳ではなくて、希望があれば農大校生のメリットとして格安で取得できるようにはしておきたい。また、10リットル散布する機体の効果がどうなのかということはあるが、本校としては重要な技術の一つと考えている。

[委員]

ドローンを使った農薬散布は他の畑に飛散することが考えられる。

[委員]

脱線するかもしれないが、ドローンに関する苦情も聞かれる。

[委員長代行]

そんなに広範囲に散るものなのか。

[委員]

そうでもないと思うが、風の強さにもよる。

[委員長代行]

先生方の教官資格取得が先ということであるが、予定がずれ込んでいるということである。しかし、努力されているのであれば『B』にしておきたい。他の件も後ほど一つ一つ評価していくが全体的に『B』が多い。委員が見て『A』でもよいのではないかとこのところを挙げていきたい。

[委員]

資格取得を受験する時の受験料等の経費は学生の手出しなのか。

[校長]

畜産学科の人工授精師等は別であるが、フラワー技能検定等の他の資格・検定は個人の学生預金から支払っている。資格を多く取得する専攻もあるし、そうでない専攻もある。

[委員]

資格に対する助成は特にはないということか。

[農学科長]

助成というのも特にない。

[委員]

坂本委員が取得されている野菜ソムリエは10万円以上かかる。助成する仕組みがほしいと思う。

[委員]

野菜ソムリエは15万円かかる。

[校長]

ぜひ、県からコメントがほしい。

[委員長代行]

農業経営支援課はこの件について何かないか。

[委員]

ほとんどの学生が取得する資格についての支援は資格取得につながる研修で支援している。県は全体的に資格を取得できる方向で支援するので、試験の費用はそれぞれ個人で負担するという形でお願いしたい。

[委員]

危険物取扱者等の資格は農業法人に就職する時に求められるのか、それとも持っていて当たり前ということなのか。

[校長]

いろいろな資格を所有していると法人にとって都合がよいと思うが、採用側からはこの資格を持っていないと就職できないというようには求められてはいない。職員の方から学生にこういう資格を持っていると就職に有利だと話すことはあるので、学生がどう考えるかである。

[教育担当副校長]

農業高校生が農業法人に就職することもあるが、どちらかというとな農業法人から農大校生がほしいと言われる。評価表 8 ページの記載事項で先ほど説明を飛ばしてしまったところであるが、全学生共通というところで大型特殊車両とけん引と書かれてあるものは、ほぼ全ての学生が取得していく資格である。農業法人はそういう免許を取得している者の方がいいというか必要性があるということである。大型特殊とけん引については本校で講習と試験を行っているが、基本的にここにかかる経費はかかっていない。農業法人から農大校生は即戦力になると言われるが、実際に実習で機械に乗っているの、農業法人は農大校生が良いということだと思う。

[委員]

即就農する学生もそのような資格を取得するのか。

[教育担当副校長]

人数でわかると思うが、大型特殊の農耕用はほとんどの学生が取得している。特別な事情のある学生以外は全員取得しているということになる。

[委員]

自動車学校で取得すると 17 万円程かかる。農大校生は校内で研修し、費用は受験料だけ。試験も試験官に学校へ来てもらって校内で取得できる。

[委員]

新規就農者も町から補助が出てここで取得できる。県の農業担い手対策室から費用が出ていると思う。

[委員]

学生だけではなく、農業者もここで研修を受けて資格が取れる。

[委員]

5 名程度のグループで申し込むと受講しやすくなると聞いている。

[校長]

委員の息子さんが取得されたと思うが、市町村に認定農業者や新規就農者から選んでいただいて社会人枠が確保できれば受講ができることになっている。本校としては、学生を最優先して資格取得を指導し、空いた時間に社会人を入れることにしている。

[委員]

配付資料の「県立農業大学校活動の記録」に掲載されている「12月9日男女共同参画社会講演」は評価シートのどこに該当する取組なのか。評価シートには記載されないのか。

[教務学生課専門主幹]

保健の授業の一環で毎年実施しているもの。今年度は男女協働参画であったが、保健担当職員が切り口を変えながら毎年実施している講座である。

[委員]

今年度は女性農業者との交流を企画していたがコロナで実施できなかった。そういう学生との交流をやりたいと思っているが、どうやったらこのようにできるのかを知りたい。

[校長]

今年はHinataあぐりんぬとの交流はできなかったが、最近は女子学生が増えていることもあり、女性農業者との意見交換を不定期ではあるが実施している。来年度は女子学生が増える予定であるので、女性農業者との交流はぜひやりたいと思っている。

[委員]

私は農林水産省の農業女子プロジェクトに参加しているが、男子生徒にも女性農業者の活動を知ってもらいたいので、女子学生に限定せずに農業大学校の学生との交流をやっていきたい。

[委員]

評価票4ページのインターンシップであるが、今年は農大生が川南町役場で研修した。本人はアルバイトの経験がないということで、先ほど説明した「PLATZ」でレジ打ち等の研修をしてもらい、大変よい経験になったと話してくれた。インターンシップはコロナで『B』となっているが『A』でよいと思う。

[委員長代行]

インターンシップは『A』で良いのではないかと意見があったが、他に『B』を『A』にしてよいものはないか。学校で内部評価をする際に迷ったところはないか。

[教務学生課准教授]

1ページの情報発信の成果に記載してある学校ホームページの移行にはかなり力を入れた。これまで業者頼りであったものを自前でやることにしたので大変な作業だった。評価で悩んだところではある。情報発信が昨年度と比較してそれ程増えていないことを考慮して『B』とした。

[校長]

新しい取組ではあったが、イベント的な情報発信をする材料が減った。例えば、インターンシップに行って農家の方々とこういうことを学んだとか大々的にPRしたかった。

[委員]

インターンシップは『A』でいいと思う。ちなみに、私のところで研修を受けた4名の学生はテレビのニュースで紹介された。

[教務学生課専門主幹]

評価票7ページの真ん中のところ、昨年度に比べて農学科・畜産学科が共に頑張ったのがGAPの取組。目に見えるように農場が良くなった。各学科は『B』としているが、教務学生課から見ると『A』でも良いのではないかと思う。GAP認証を取得したということではなく、日々先生方が苦勞したことで定着してきている。

[委員長代行]

そういうことが大事。

[校長]

5年振りに農大校に戻ったが農場は以前に比べてはるかに良くなっている。

[委員]

学生募集への取組も評価を上げていいのではないか。

[委員長代行]

先生方が高校をしっかりと回っている。今年度の学生募集の状況はどうなのか。

[校長]

第二次募集まで実施して本日合格発表をしたが現時点では定員を満たしていない。大学入試の合格発表の都合もあり、入学を保留している合格者もいて入学者数はまだ固まっていないが、それでも定員を満たすことはできない。本校としては定員を満たす努力は必要ということで厳しめにしている。例年以上に頑張っているが、一番の背景は生徒数が減ってきているということである。

[委員長代行]

そんなに割り込んでいるのか。

[校長]

今年の1年生が61名の入学、2年生が55名で入学している。次年度の入学者は今のままでいくと55名を下回る。

[委員]

60名を超えるといいのだが、成果が見えてしまう。

[校長]

どうしても数字で見られる部分がある。頑張ってはいるが、農業高校にも同じような傾向がある。本校は農業高校から進学してくる学生が8割程度いるので高大連携をやっている。だから、もっと遡って中学生に入り込まなければならないということも考えながら高大連携に取り組んでいる。

[委員長代行]

中学生にまでそういう環境をつくっていかねばならなかったということであれば『B』でも仕方ない。

[校長]

評価票6ページで説明をしなかったが、本校の学生はプロジェクト活動を実習の基本として頑張っている。九州大会では3位入賞し、全国大会に上がっているところである。以前は参加するだけだったが、高い意欲をもって取り組んでいる学生と学生を指導している職員がいる。

[委員長代行]

プロジェクト学習は『A』にしてもよい。

[委員]

成績も出ているので『A』でよい。

[委員長代行]

外部評価について評価票の最初から確認する。

		内部	外部
1 学生確保	ア 情報発信	B	→ A
	イ 募集活動	B	→ B
2 教育の質の向上	ウ 講義・演習	教務学生課	B → B
		農学科	A → A
		畜産学科	A → A
		フードビジネス専攻	A → A
	エ 研修	インターンシップ	B → A
		職員研修	B → B
	オ プロジェクト学習	B	→ A
カ 学生指導・支援	教務学生課	B → B	
	各学科共通	B	→ A
3 進路指導	キ 資格取得	教務学生課	C → B
		各学科共通	B → B
	ク 就農・就職対策	教務学生課	B → B
		各学科共通	A → A

[委員長代行]

職員研修は『B』のままでよいのか。

[校長]

職員の資質向上は大事なのでいろんな企画をしていたがコロナでことごとく中止となった。

[委員長代行]

コロナが治れば、研修の機会も回復するというのでそのまましておく。他に委員から何かないか。

[委員]

農業担い手対策室長へ要望であるが、今年の卒業生の状況を見ると、農学科は即就農する学生が1名だけとなり少くない。全くの新規就農であると50%程度が離農するので、以前からお願いしているが親元就農に目を向けていただきたいと思う。親元就農は何もかも揃っているのに、親元で農業を始める就農者の支援体制をとっていただきたいとつくづく思う。

[委員]

昨年度から県単の就農支援制度が使えるようになってきているし、今年から親元就農をする農家の施設の更新とか新しい機械を入れるところの支援の利用もできたので、少しずつ親元就農へも目が向いてきていると思う。私たちも努力するが、国に対してもそういう要望を上げていきたい。

やはり、親としては親元就農で親と違うことや新しいことをしてもらうのが一番良いと思うのでしっかりやっていきたい。

[委員]

そういう支援策があるということを学生は知る機会があるのか。そういう支援を国や県がやっている情報を学生が知ることはできるのか。そういう情報を知っていると、法人就農か親元就農かの選択ができる。

[校長]

農業経営支援課等の県庁職員が講義で概論のような話をする。ただし、それに対して学生がピンときていない。進路先一覧表を見てわかるように、実際には法人就農となっているが親がまだ若いので、法人就農で何年間かよその飯を食って来いというケースが多い。

[委員]

主人もJAに勤めた後の就農だった。就農してから5年間の支援制度があることを知らずに5年過ごした。私たちが農大生の頃はこういう制度はなかった。学生がそういう制度を知っていれば選択肢の一つになると思った。インターンシップでうちに来た4名の学生は就農したいと言っていたのでお願いしたい。

[委員]

県の支援策はホームページのどこを見てよいかわからないということで、来年度からホームページを全体的に見やすくする。動画やyoutubeでの情報発信が容易になってきているので、MAFIN(マフィン)という名称の農業と漁業のホームページで動画を含めて情報を一元化する準備をしている。農業大学の情報もここから出していくことになるので期待してほしい。

[委員]

年度末であるが就農・就職がまだ決まっていない学生が先々どのくらい出てくるのか。

[校長]

進路先一覧表には決まっていない学生が現時点で5名となっているが方向性は決まっている。最後の踏ん切りがつかないということで悩んでいる。私たちも若い頃に悩んだ時期があるので未定という形になるかもしれないが、ゆっくりと考えて決めた方がいいと話している。

ちなみに、残っている学生は非常に優秀である。なぜ、悩むのかなというくらいどこに行っても通用する学生もいる。日本農業経営者大学校へ進学予定の学生も未定に含まれている。

[委員]

そんなに心配することはないようである。これで意見交換は終わりにしたい。

### 5-3 閉会行事

#### (1) 次年度の外部評価委員について [教育担当副校長]

次年度の外部評価委員ですが、外部評価委員は任期が1年となっていますので、改めて電話なり文書なりでお願いする予定にしております。その際は快くお引き受けいただくと学校としては助かりますので、よろしくお願いします。

#### (2) 校長謝辞

貴重なご意見ありがとうございました。また、高く評価していただきありがとうございます。

校長として昨年4月に赴任しましたが、今年は何と言ってもコロナでした。ここに昨年度の校長もいらっしゃいますが、コロナが寮で発生したらどうしようかと思っていました。現時点では、大学の寮では発生していませんが、これから発生しないとは誰も言えません。九州の他県の農大校では寮で発生したことを聞きました。本当に大変だったと言っていました。本校につきましては学生・職員が大学を守っていただいたことが本当に誇らしかったと思っています。

先ほど言いましたが、来年度につきましては学生が現状で定員に未達ということで、いろんな厳しい声を聞いていますが、今の学生は優秀で前向きな学生が多いです。そういう学生を宮崎県の農業を担うように育てますので、今後ともご支援を賜りますようお願いいたします。

本日はありがとうございました。